

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月9日

【評価実施概要】

事業所番号	870200987		
法人名	社会福祉法人 春陽会		
事業所名	グループホーム MAO		
所在地	日立市みなと町10-10 (電話) 0294-25-5522		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年9月9日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	14人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての 2 ~ 3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~54,000 円	その他の経費(月額)	48,000円他実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年2月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	7	要介護2	5		
要介護3	3	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	1		
年齢	平均 80 歳	最低	67 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日立梅が丘病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域と交流を積極的に行い、職員全員で造った理念をもとに、地域に根ざしたホームづくりに努めている。
近隣住民の方々との関わりや市社会福祉協議会との連携、同じ地域内にあるグループホームとの交流等、地域密着型サービスとして特色を活かすケアに取り組んでいる。
建物はクリニックMAOを併設し、曜日は限られているが夜間診療を行っているため、利用者が夜間の体調不良時は迅速な対応が可能で、利用者・家族・職員の安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を踏まえながら、自らの気づきを加えて利用者の権利・義務の事項を契約書に明示している。 利用者が積極的に地域に出かけて楽しめる雰囲気づくりをしている。 職員の育成を図る仕組みづくりなどの改善をしている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価や外部評価の意義や目的について職員に周知を図るまでには至っていないので、全職員に伝え管理者や職員全員で自己評価に取り組む体制づくりが望まれる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。 会議議事録を作成し、その内容について職員に周知を図るとともに、課題の改善に取り組んでいる。 市主催の事業所懇談会や連絡会に出席し情報を得るとともに、地域交流やボランティア派遣等の相談を行う機会をつくっている。 月に1度介護相談員の派遣を受けている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の日頃の暮らしぶりや事業所の行事を知らせるホーム便り「MAO通信」を作成し、家族に報告している。 金銭に関する管理状況の報告は定期的に行っている。 家族の訪問時や電話等で意見や苦情が言えるよう働きかけている。 また、意見箱を玄関に設置している。 意見の対応は管理者や職員で検討し、改善するよう努めている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区のいきいきサロン・ふれあいサロンへ参加するとともに、防災訓練は地域の方々と一緒に実施している。 事業所の行事に演奏ボランティアや手工芸のクリエイターを受け入れたり、花火大会には地域の方々を招待するなど、地域と交流している。 地域の行事にも積極的に参加し、交流に努めている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日頃から介護に込めている「想い」を職員全員で話し合い、地域密着型サービスの役割を考え、事業所として独自の理念を職員全員でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の実践の中で話し合いや工夫を重ねるとともに、理念を活かし共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区のいきいきサロン・ふれあいサロンに参加するとともに、防災訓練を地域の方々と一緒に実施している。 事業所の行事に演奏ボランティアや手工芸クリエーターを受け入れたり、花火大会には地域の方々を招待するなど、地域と交流している。 地域の行事にも積極的に参加し、交流に努めている。	○	近隣の幼稚園・保育園・小中学校等での三世代交流をはじめとする地域交流を活発に行うよう提案する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果と自らの気づきを加え、利用者の権利や義務の事項を契約書に明示している。 利用者が積極的に地域に出かけて楽しめる雰囲気づくりをしている。 職員の育成を図る仕組みづくりなど課題の改善をしている。 自己評価や外部評価の意義や目的について職員に周知を図るまでには至っていない。	○	外部評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組む体制づくりが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。会議議事録を作成するとともに内容について職員に周知を図り、課題の改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の事業所懇談会や連絡会に出席し情報を得るとともに、地域交流やボランティア派遣等の相談を行う機会をつくっている。月に1回介護相談員の派遣を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日頃の暮らしぶりや事業所の行事を知らせるホーム便り「MAO通信」を作成し、家族に報告している。 金銭に関する管理状況の報告は定期的に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話等で意見や苦情が言えるよう働きかけている。 また、意見の対応は管理者や職員ですぐに検討するとともに、改善できるよう努めている。 意見箱を玄関に設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動のある場合は事前に利用者との関係づくりを行うとともに、利用者へのダメージを抑えるよう配慮している。	○	職員が異動した場合は利用者や家族に報告することが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を随時掲示し、研修参加を呼びかけるとともに、研修を受けやすいよう職員の勤務調整を行っている。 受講者は研修内容をミーティング等で報告し、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会・市の事業所連絡会・ケアマネージャー連絡会に加入し、地域の同業者と交流する機会をもち、研修会や講習会で情報交換を行っている。 近隣の事業所と合同による救急救命の講習を実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホームの雰囲気に馴染めるよう、ホームの生活の様子を実態調査時に詳細に伝えるとともに、ホーム内の見学を経てから納得したうえで利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、日常生活の中で、昔からの行事やしきたり等を語り合い、先輩としてのアドバイスを受けるなど、支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を把握するとともに、希望を聞いたり言葉や表情等から推察し、利用者の希望にそったサービスを提供できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を第一に考え、関係者と職員間で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が見られた時は介護計画を見直し、家族等に説明するとともに話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族等の要望に応じて、通院介助や買い物の付き添い等の支援をしている。 面会時間を自由に行っているほか、24時間の医療体制により柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそって、かかりつけ医を決定している。 設置法人の病院と協力し、定期的な受診と24時間いつでも適切な医療が受けられる体制を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の意見を尊重するとともに医師と話し合い、全員で方針を共有している。 「重度化した場合の対応にかかる指針」「看取りに関する指針」を作成し、重要事項説明書に明示するとともに利用者や家族に説明し、同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。 記録等は保管場所を決め、個人情報の漏洩に配慮するとともに、個人記録の記入は利用者以外はイニシャルで表記している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の体調に配慮し、その日・その時の気持ちを尊重して過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら、職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回午後入浴となっているが、利用者の希望に合わせて、ゆったりと入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割（室内の清掃・洗濯たたみ・食後の片づけ）や趣味を持って過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気持ちや体調に注意しながら、散歩や日光浴をしている。 年間行事で季節のドライブをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しているが、家族に説明し理解を得て、各ユニットの入り口に構造上安全確保のため鍵をかけている。 非常口側のドアは外を眺めたり外気浴を楽しめるよう、自由に出入りできる配慮をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により、防災訓練を地域の方々の協力を得て定期的に行っている。 避難場所や経路の確認とともに、必需品を備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分量を記録し、状態に応じた支援を行うよう職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく、カーテン等で適度に陽光を調節している。 季節のアレンジメントフラワーや生花を活けるなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテレビや愛用の衣類、趣味の品等を自由に持ち込み、家族と談笑するなど利用者が安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。